

平成29年7月26日 北海道建設新聞

酒井重工業の最新 ロードカッター導入

i-Construct対応や安全性向上で

今日和（本社・札幌）は、酒井重工業（同・東京）の最新ロードカッター「ER555F」を導入した。切削時の粉じんを抑える集じん装置や5台の安全カメラなど、環境性能や安全性を向上させた機械。今後のi-Constructを視野に情報化施工に対応した仕様としている。酒井重工業による

と、道内での同機導入は今日和が初めてだという。

ER555Fは、排ガス4次規制に対応した環境負荷の小さい路面切削機。コマツ製のエンジンを搭載し、オフロード法2014年基準などに適合しながら、最大503馬力の高出力を発揮する。

フィルター脱着式の集

じん装置を備え、切削時に粉じんが巻き散らないよう配慮。視認性が高まるため、安全作業にも結び付く。

高い安全性も特長。カメラ5台とモニター3台を搭載し、機械回りに潜む危険をいち早く察知できる。車両前・後方の障

安全性と環境性が特長の

ER555F



害物などを検知し、プザーで警告する「ミハール」も標準装備する。

施工性も向上。ビットの本数は従来機よりも少なくなつたが、角度や配列、かき上げ板などを見直すことで、路面切削や廃材集積・積み込み作業の効率を高めた。

札幌市発注の前田北44号線（前田西区画整理28号線―前田北47号線間）ほか5線舗装路面改良が初現場となる。

今日和の河村寿幸社長は「将来のi-Construct

onを見据えて導入した。施工性や安全性を高め、他社との差別化を図っていきたい」と話している。